

論文 / 著書情報
Article / Book Information

Title	Agendas and Issues of Participatory Dialogues by Junior-High and High School Students from Fukushima Hama-doori and Capital Area (5) Recognition for thyroid examination of six years after the accident and future issues
Authors	TETSUO SAWADA, Chieko Nakayama, Natsumi Kimura, Atsushi Koori
Citation	Annual meeting of the Atomic Energy Society of Japan, , ,
Pub. date	2018, 3

福島浜通りと首都圏の中高生による参加型対話の課題と成果

(5) 事故から6年後の甲状腺検査に対する認識と今後の課題

Agendas and Issues of Participatory Dialogues by Junior-High and High School Students from Fukushima
Hama-doori and Capital Area

(5) Recognition for thyroid examination of six years after the accident and future issues

*澤田 哲生¹, 中山 知恵子², 木村 菜摘³, 桑折 淳⁴

¹東工大, ²神大附属中高, ³東北大, ⁴磐城高校

事故から6年が経って、福島で実施されてきた甲状腺検査の結果、国連の科学委員会(UNSCEAR)は甲状腺への放射線影響はないという結論をすでに出した。しかし、現実には検査結果への疑問やその意義を質す声が絶えない。この現況を踏まえて、中高校生との対話を通じて見えてきた将来的課題について提言する。

キーワード: 福島, 甲状腺検査, 中高生, 参加型対話, Socio-scientific Issues (SSI), UNSCEAR

1. 緒言

原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)は、福島県全域の子供を対象に実施されている甲状腺検査に関して、2013年報告書において公衆への健康影響の項で次のように明記した。すなわち、“甲状腺がん、白血病ならびに乳がん発生率が、自然発生率と識別可能なレベルで今後増加することは予想されない。その後、福島県内の18歳以下の子供(約37万人)を対象とした甲状腺検査の2巡目が2014年~2015年にかけて実施された。その結果を踏まえて、UNSCEARは2017年白書を刊行した。その中では、“本委員会は、2013年報告書における福島第一原子力発電所事故による放射線被ばくの健康影響に関する知見は引き続き有効であり、それ以降に発表された新規情報の影響をほとんど受けていないとの結論に達した”とした。

2. 甲状腺検査に関わる問題の所在と対処方法

2-1. 問題の所在

問題は主に二つある。① 上述のUNSCEARの出した結論が当事者、つまり18歳以下の子供とその近親者にわかりやすい形で届いていないこと。② UNSCEARの結論に根強い異論があること。例えば、核戦争防止国際医師会議(IPPNW)を舞台に甲状腺がんの異常多発を警告している日本の医師たち等による異論である。また、甲状腺異常多発論がマスメディアやSNSを通じて拡散されやすいことも事態を複雑にしている。

2-2. 対処方法

甲状腺検査の意義及び結果と解釈に関して、福島県の当事者である若者が抱える不安や疑問を解消するために、当事者を中心にした内省的思考とアクティブラーニングを活用したダイアログ手法が有効であることをこれまでに確認してきた[1,2,3]。とりわけSocio-Scientific Issue(SSI)の4指標(科学的知識を待つ市民の養成、社会的責任の内省的な育成、弛まぬ思索と論理的議論、批判的思考の発揮)を意識して、地域間ダイアログを行えば、協働の中から公共性のある論点が見える化され、アドボカシー(公共政策の形成促進)に繋がる可能性を確認した[4]。またこの手法は被験者が抱える心的外傷後ストレス障害の解消にも道を開く。

3. 結言

ダイアログにより、中高校生らが甲状腺問題にボトムアップ的に対処できることが明らかになった。今後は専門知識を動員し、甲状腺問題の取り組みを広域的地域連携により深化させていくことが課題となる。

参考文献 [1]~[3] 日本原子力学会2017春の年会予稿集、2C13~2C15

[4] 日本原子力学会2017秋の大会予稿集、1004

*Tetsuo Sawada¹, Chieko Nakayama², Natsumi Kimura³ and Atsushi Koori⁴

¹Tokyo Tech., ²Kanagawa Univ. High, ³Tohoku Univ., ⁴Iwaki High School